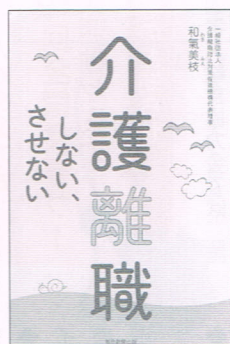


介護離職しない、させない

最近、社会問題の一つとして、新聞やテレビでさかんに取り上げられている「介護離職」。介護のために離職している中心層は、40代から60代の働き盛りの世代であり、雇用側にとっても大きな損失になるといわれています。

本書では、介護離職を経験し、今年で介護歴13年めを迎えた著者が、さまざまな介護や離職の事例を盛り込みながら、「介護離職しない、させない」知恵やスキル、工夫をわかりやすく紹介しています。

また、特別付録には介護者支援団体・介護者の会のリストが掲載されています。いざというときに「あなたの味方」になってくれることでしょう。



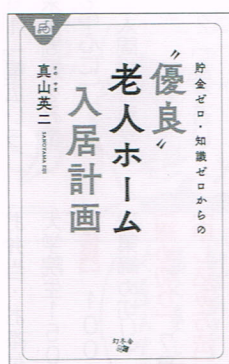
和氣美枝 著
発行／毎日新聞出版
224頁 新書判
定価 本体1200円（税別）

貯金ゼロ・知識ゼロからの 優良老人ホーム入居計画

在宅介護はつらいが、親を施設に預けるお金もない。八方ふさがりになりつつある……。親を介護する家族の窮状に対して、ファイナンシャルプランナーである著者は、親の持ち家を使い老人ホームでの生活資金をつくることを提案しています。

本書では、親の自宅から収入を生み出す手段の解説や、有料老人ホームを選ぶポイント、また施設への入居の実現までのノウハウがまとめられています。

今後、手厚い介護が必要になる人の生活の場が自宅から老人ホームへと移行すると考えられるなか、介護する側、される側両者の幸せを考える内容となっています。



真山英二 著
発行／幻冬舎メディアコンサルティング
180頁 新書判
定価 本体800円（税別）

生老病死の医療をみつめて ―医者と宗教者が語る、その光と影―

「医療は生老病死の世界である」と提示する本書は、第一線で活躍する医者と宗教者ら8人によって、前項の著者の思いを受けて次項の著者が答えていく連歌形式で執筆されました。

著者らの自らの体験を交えつつ、病を受け入れた患者や見送った家族との対話を元に、来る「多死社会」を最後まで見届ける「医療の心」がつづられています。

誰もが終末期をよりよく生きるためのエピソードを読んで、身近な人や自らの死のあり方について思いをはせてみましょう。それが、今ある生をよりよく見直す一助となるでしょう。



中井吉英 編著
発行／ミネルヴァ書房
224頁 四六判
定価 本体2500円（税別）